

公益社団法人

福岡県作業療法協会会報

第117号 平成26年10月15日発行

(事務局)

〒802-0044 北九州市小倉北区熊本1丁目9-1 ONE OFF第2ビル101号

TEL 093-952-7587 発行責任者 志井田 太一 編集責任者 菅沼 一平

ホームページアドレス:<http://www.fuku-ot.org/>



特

集

「作業に根ざした実践を理解し、日々の臨床に活かすために」

目次

巻頭言:

「我々に求められているもの」

公益社団法人 福岡県作業療法協会 副会長 座小田 孝安 . . . 1

会長行動 . . . 1

特集:

「作業に根ざした実践を理解し、日々の臨床に活かすために」

医療法人福西会 介護老人保健施設
ケアセンターひまわり苑 鎌田 陽之 . . . 2

理事会報告 . . . 5

定期社員総会報告 . . . 9

各部委員会からのお知らせ . . . 11

Occupation 医療法人社団天翠会 介護老人保健施設
エメロード三萩野 衛藤 まき . . . 16

リレーエッセイ 医療法人 三芳会 若戸病院 中村 依古
北九州市議会議員 中村 義雄 . . . 17

「地域包括ケアシステムと作業療法」

公益社団法人 福岡県作業療法協会 会長 志井田 太一 . . . 18

会員動向調査 . . . 19

巻 頭 言 「我々に求められているもの」

公益社団法人 福岡県作業療法協会 代表理事 志井田 太一

平成26年4月の診療報酬改定において、在宅における医療と介護との連携の重要性や地域包括ケア病棟入院料が新設され患者さんの在宅復帰支援を有し、地域包括ケアシステムを支える役割を担うとされています。

一方、介護保険においては来年3月までの第5期計画の中で①認知症支援策の充実②介護と医療の連携③高齢者の居住のに係る施策との連携④生活支援サービスの充実を図ってきました。

この流れを受けて来年4月に行われる介護保険制度及び介護報酬の改定では2025年に向けて第5期で開始した地域包括ケア実現のための方向性を継承し、中長期的な視野に立った施策の展開を図っていくと思われまふ。

医療や介護の流れが地域包括ケアシステムに流れていく中でこの度「高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たな在り方検討委員会」（第1回 平成26年9月29日 座長 大森 彌・東京大学名誉教授）が開催されました。我々にとって非常に厳しい指摘や課題が盛り込まれています。特に平成16年1月に高齢者リハビリテーション研究会がまとめられた「高齢者リハビリテーションのあるべき方向性」に盛り込まれた問題が10年の歳月を経て、未だに実現されていないという点であります。また、検討会では課題が7点ほど示されておりその中の一つを紹介すると「身体機能に偏ったリハビリテーションが実施され活動や参加など生活機能全般を向上させるためのバランスのとれたリハビリテーションが徹底できていない」というような指摘であります。（詳細は厚生労働省のホームページをご参照ください）

理学療法士とともに作業療法士もその数は充実してきました。急性期・回復期・維持期（生活期）において何をすべきか私も含めひとり一人が再度見つめなおすことを感じながらこの委員会の議論を見つめていきたいと思ひます。

会長行動（平成26年8月～10月）

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 8月3日 | 平成26年度第2回日本作業療法士協会
学会運営委員会 出席
場所：日本作業療法士協会事務所 | 10月18日 | 臨床実習指導者養成研修 参加
場所：九州栄養福祉大学小倉南キャンパス |
| 8月9日 | 介護予防市町村支援事業実施に関する
研修会（PT，OT，ST協会主催）出席
場所：TKPガーデンシティ永田町 | 10月30日 | 北九州市すこやか住宅推進協議会
平成26年度第2回理事会 出席
場所：ホテルアルモニーサンク |
| 8月11日 | 平成26年度第4回福岡県作業療法協会
理事会 出席
場所：らそうむスポーツガーデン | 10月31日 | 平成26年度第1回北九州市障害支援区分
認定審査会調整委員会 出席
場所：北九州市総合保健福祉センター |
| 8月19日 | 「次期北九州市高齢者支援計画」策定に
向けた「関係団体の意見を聴く会」参加
場所：北九州市立男女共同参画センター
・ムーブ | | |
| 9月5日 | 一般社団法人福岡県医療ソーシャルワーカー協会創立60周年，一般社団法人移行
記念講演会，祝賀会
場所：TKPガーデンシティ天神，天神モノ
リス | | |
| 9月20日 | 産業医科大学リハビリテーション医療
研究会 出席
場所：リーガロイヤルホテル小倉 | | |
| 10月6日 | 平成26年度 第5回福岡県作業療法協会
理事会 出席
場所：らそうむスポーツガーデン | | |

【はじめに】

福岡県作業療法協会会員の皆さんお疲れ様です！！私は福岡市早良区にある介護老人保健施設ケアセンターひまわり苑に勤務する作業療法士の鎌田と申します。ひまわり苑には認知症専門棟があり、他職種とも連携して、認知症高齢者の皆さんに生き活きと自分らしい生活を送っていただけることに力をいれています。また、地域の作業療法士の皆さんのお役に立つために、福岡ブロックでエリア会や事例報告会の企画・運営のお手伝いをさせていただいています。

今回は「作業に根ざした実践についてわかりやすく書いて欲しい」との依頼を受けました。私は、以前、吉備国際大学保健科学研究科修士課程（通信制）に在籍し、京極真先生の指導のもと「認知症高齢者の作業的变化」について研究しました。この原稿では、作業に根ざした実践の概要と理解するために必要な知識、そして臨床で展開していくためのヒントについて、研究において私が学んだことや博士課程で頑張っている寺岡睦さんの研究を含め、紹介します。皆さんがより良い作業療法実践を行なうことのお役に立てればと思います。

【作業に根ざした実践とは】

作業に根ざした実践（Occupation Based Practice, 以下OBP）とは作業療法の中でも特にその人のしたいこと、しなければならない作業（セルフケア、生産活動、レジャー）をすることに焦点を当てて展開されるもののこと¹⁾。

作業療法の歴史においては、手工芸やレクリエーションに取り組むこと自体に価値があるとされた初期の時代から、還元主義的医学の影響を受け、機能障害の改善に力点が置かれた時代を経てOBPの時代へと変遷したとされます²⁾。我が国では、日本作業療法士協会が対象者の行いたいと思っている生活行為を可能にすることで健康的な地域生活が継続できるよう支援するツールとして生活行為向上マネジメントを開発しました³⁾⁴⁾。

OBPの効果を示した研究としては南カリフォルニア大学の教員が行った「健やか高齢者研究」が有名です⁵⁾。この研究は大規模ランダム化比較試験という方法で行なわれました。361名の健常高齢者を作業療法群、社会的活動群、無介入群の3群に分け、9ヶ月間の介入が行なわれました。作業療法群では作業療法士が「ライフスタイル再構築」というOBPのプログラムを行い、社会的活動群では専門職でないスタッフがダンス、手工芸、外出などのグループ活動を行いました。その介入の効果は生活機能、生活満足度、抑うつ状態、健康関連QOLなどで測定されま

した。結果、作業療法群では社会的活動群、無介入群と比べて15項目のうち10項目で優位な変化が見られました。さらには、その効果が介入後6ヶ月も持続していました。

【作業機能障害とは】

それでは、作業が出来ないことはどのような影響を及ぼすでしょうか。生活行為を適切にやり遂げられないことは作業機能障害と呼ばれます。作業療法士は作業機能障害を解決する専門家であるため、作業機能障害の種類を評価し、介入する必要があります。作業機能障害には複数の種類がありますが、研究者によって異なり、一定の見解に至っていません。

寺岡はそれを理解しやすくするために、事象を的確に説明する構成概念を整理し、作業機能障害の種類と評価（Classification and Assessment of Occupation Dysfunction, 以下CAOD）を開発しました⁶⁾。結果、作業機能障害の構成概念は①作業剥奪②作業疎外③作業不均衡④作業周縁化となりました。作業剥奪とは外的要因によって生活行為ができない状態を指します。具体的には入院したことで趣味活動を行なうことが制限されるようなことです。作業疎外とは、生活行為に対して意味を見出せない状態です。具体的には、骨折で歩行ができなくなったせいで、日々の生活に満足が感じられなくなったようなことです。作業不均衡は日々の生活行為のバランスが崩れた状態です。具体的には入院して臥床時間が長くなり、退屈になるようなことです。作業周縁化は多くの人が価値を認めるような生活行為を行えない状態であるとされます。例えば、生活行為より治療の方が優先されて、好んでいた趣味活動が行えなくなるようなことです。またこれらの構成概念に基づき具体的な項目の群（項目プール）を作成し、作業機能障害の種類を評価できる尺度であるCAODを開発しました。CAODは作業療法士が対象者の作業機能障害を捉える参考になると思います。

【OBPと信念対立について】

OBPの実行においては困難さが伴うことがあります。例えば急性期など身体機能障害への介入に比重を置く臨床現場では、OBPが機能障害の改善を直接目指した方法ではないということから、また回復期リハビリテーション病棟など日常生活活動の自立を重視する施設では、クライアントが趣味活動を望んでも、実現が難しく、他のOTや他職種からOBPを行なうことを拒否されるかもしれません。さらにはOTとクライアントの価値観と食い違うこともあるかもしれません。こうした問題は

信念対立と呼ばれています⁷⁾。

OBPにおける信念対立を克服するためには、①OBPに信念対立をもたらさう人々の状況、関心、信念の関係を問い返して気づくこと②関係者に状況、関心、信念に共通の認識を持つようにすることが条件です。具体的には、解明評価と解明交流法を行います。解明評価では、信念対立の争点、関係者は誰か、問題になっている考え方（信念）、信念の背景にあり関心を明らかにしていきます。評価を通して全体像を把握したら、次に解明交流法として信念対立している人々と信頼関係を構築していき信念対立解明アプローチを実行していきます。なお、前述の作業機能障害の評価、介入と信念対立解明アプローチを用いてOBPを行なうものがOBP2.0として研究されています⁸⁾。

【OBP2.0とはどのような理論なのか？】

ではOBP2.0とはどのような理論でしょうか？ 人間作業モデルなどの従来の理論や作業科学などの学問に比べて、どういう特性があるのでしょうか？詳細は文献⁸⁾にゆずるとして、ここでは私なりにこれらの問いに答えてみたいと思います。

まず言えることは、OBP2.0は「日本発の作業療法理論」だという点です。これまでOBPは、海外で開発された理論に頼って実践されてきました。川モデルを提唱したMichaelが指摘しているように、日本の作業療法実践は向上した部分があるものの、日本の臨床現場では使いにくいという問題もありました⁹⁾。それに対して、OBP2.0は日本の臨床で生じる問題を軸に体系化されており、従来の理論や学問よりも文化の壁を越えて活用しやすいものになっていると思います。

またOBP2.0は、医学モデルvs作業モデル、パターンリズムvsクライアント中心、トップダウンアプローチvsボトムアップアプローチ、西洋作業療法理論vs東洋作業療法理論などの根源的な対立軸を越えるものとして設計されています。OBP2.0には信念対立解明アプローチが組み込まれているため、あらゆるツール（理論、学問、哲学、思想、評価と治療の技術など）は状況と目的に照らしあわせて活用されることになるからです。従来の理論や学問では、根源的な対立を越える理路がなかったことを考えると、これはとても大きな特徴だと思います。

さらに言うと、OBP2.0は作業療法で解決できる問題を非常にクリアに整理していますので、作業療法のポテンシャルを引き出しやすい理論になっていると思います。方法（この場合は作業療法）は問題があってもその有効性が発揮できます。問題が不明瞭だと方法の使い方がわからず、結果として有効性を引き出せません。OBP2.0は、作業療法で解決できる問題を4パターンの組み合わせに集約することによって、この方法で解ける問題を簡潔明瞭に示しています。そのぶん、作業療法士は問題解決そのものにエネルギーを投入できるので、作業療法のポテンシャルを引き出し引き延ばしていきやすくなると思われ

ます。それによって救われるのはクライアントとご家族ですから、この特徴は刮目すべきものだと思います。

【その方の作業を知るために】

OBPを行なうための最初のステップの1つはその方のしたい、しなければならない作業を作業療法士がきちんと知ることです。そのための代表的な評価法にカナダ作業遂行測定（Canadian Occupational Performance Measure, 以下COPM）があります¹⁰⁾。COPMは、クライアントにとって意味のある作業を探し、介入の前後でその作業に対するクライアントの思いの変化を測定するものです。最初にクライアントに「したいこと」「する必要のあること」「周囲から期待されている」ことを聞きます。COPMでは、作業名を並べ挙げて聞くということはありません。専門家の意見のみにとらわれないクライアント中心主義というのがCOPMの特徴です。次にその作業に関する現在の重要度、遂行度、満足度を尋ねます。そして介入後に遂行度、満足度を再評価します。

また、日本で開発されたものとして作業選択意思決定支援ソフト（aid decision-making in occupational choice, 以下ADOC）があります¹¹⁾。これはiPadのアプリケーションとして開発されたもので、リハビリテーションの目標設定をクライアントと協働して行なうことができます。ADOCの特徴として、アプリの指示に従って進めていくことで、簡単に個別的な目標設定をすることができます。また、イラストを見ながら行えるので、認知症や失語症など言語的なコミュニケーションが困難な対象者でもある程度適用可能です。体験版である紙面バージョンをホームページ（<http://adoc.lexues.co.jp/>）よりダウンロード可能ですので、是非試してみてください。

また、その他には人間作業モデルや生活行為向上マネジメントの中にある興味・関心チェックリストも活用することができます⁴⁾¹²⁾。

私も携わっている認知症を含む高齢者の作業療法においては、脳機能を刺激し、精神機能を賦活する目的で計算などの学習訓練療法を中心に行っていたり¹³⁾、定型的な集団プログラムをしていたりすることも多いようですが、是非これらのツールを活用していただきとその方なりの個別的な関わりも合わせて提供していただければと思います。私もOBPを意識することで、今まで知らなかった対象者の作業に関する思いを知ることができ、より豊かな実践が行えるようになりました。

【認知症高齢者の作業的变化ガイドブック】

OBPを行っていく上で大事なことは面接と観察です。クライアントのその作業に対する感情やどのように取り組みたいのかという考えを聴き、実際の行動の変化を観察していきます。前述したようにOBPにおいては最初にしたい作業や興味のある作業をきちんと尋ねることが重要です。しかし認知症高齢者

においては認知機能の低下やBPSD（認知症の行動・心理症状）によるコミュニケーションの障害があり、なかなか本人の意志を引き出すことの難しさがあります。今まで、認知症高齢者においては作業に取り組むことでの感情、思考、行動の変化（作業的变化）がとらえにくいとされてきました。よって認知症高齢者の作業的变化を作業療法士が捉えられるようになれば、もっと認知症高齢者においてOBPが可能になるのではないかと考えました。そこで開発をしたのが認知症高齢者の作業的变化ガイドブックです。

開発は4段階で行いました。手順1においてはキールホフナーによる作業的变化のカテゴリー（MOHO版OCカテゴリー）を参考に認知症高齢者に対する作業療法の事例報告59編を分析しました。結果、新たに【表情に出る】【交流する】【順応する】が生成され、MOHO版OCカテゴリーから【明らかにする】【再検討する】が削除されました。10個の認知症高齢者における作業的变化のカテゴリーを生成しました。それは、【選択する／決定する】【約束する】【探索する】【交渉する】【計画を立てる】【練習する】【持続する】【表情に出る】【交流する】【順応する】でした。手順2においては、認知症高齢者における作業的变化のカテゴリーにわかりやすくなるようにさらに定義と事例を作成し、認知症高齢者の作業的变化ガイドブックの原案（以下、原案）としました。手順3では、OBPを行っているOT10名に原案がOBPを表しているかという内部妥当性を評価してもらいました。なお、その時はメンバーが直接会わなくても意見をまとめることができるデルファイ法という方法を参考にし、調査用紙を介して全国のOTとやりとりをし、原案の修正を行いました。手順4では、認知症高齢者を対象に臨床実践を行っている一般のOTを対象に外部妥当性の調査を行いました。127名のかたに調査を行い、認知症高齢者の作業的变化ガイドブックが一般のOTに受け入れられるものであることがわかりました。

この研究によってわかったことは、認知症高齢者の場合は【明らかにする】【再検討する】のような記憶力や判断力などの思考能力を伴う作業的变化は優先度が低いこと、一方で【表情に出る】【交流する】【順応する】のようなMOHO版OCカテゴリーでは取り上げられていなかったものが認知症高齢者のOBPにおいては重要であることです。この研究は学術誌作業療法に掲載されます¹⁴⁾¹⁵⁾。是非、皆さんご一読下さい。

【終わりに】

今回の原稿では、OBPの基礎的な部分の紹介とともにOBPを行なうのにヒントになる研究や取り組みを紹介しました。福岡ブロックの事例報告会においてもOBPを取り入れたものが増えています。対象者の作業を大事にしながら豊かな実践が行えるように、福岡の作業療法を盛り上げていきましょう！！

【参考文献】

- 1) 吉川ひろみ、斉藤さわ子・編：作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド。医学書院、東京、2014。
- 2) Kielhofner G（山田孝監訳）：作業療法の理論 原著第3版。医学書院、東京、2008。
- 3) 小林隆司：生活行為向上マネジメント。齋藤編、作業で語る事例報告-作業療法レジメの書きかた・考えかた、医学書院、東京、2014、pp.54-55。
- 4) “作業”の捉え方と評価・支援技術 生活行為の自律に向けたマネジメント。医歯薬出版、東京、2011。
- 5) 吉川ひろみ：「作業」って何だろう 作業科学入門。医歯薬出版、2008、東京、pp.70-76。
- 6) 寺岡睦、京極真、中山朋子、西本佳加、山崎信和：作業機能障害の種類と評価（Classification and Assessment of Occupation Dysfunction；CAOD）の試作版作成。総合リハ41：475-479、2013。
- 7) 京極真：医療関係者のための信念対立解明アプローチ コミュニケーション・スキル入門。誠信書房、東京、2011。
- 8) 寺岡睦、京極真：作業に根ざした実践と信念対立解明アプローチを統合した「作業に根ざした実践2.0の提案」。作業療法 33：249～258、2014。
- 9) Michel K. Iwama（松原麻子、清水一、宮口英樹訳）：川モデル 文化に適した作業療法。三輪書店、東京、2014。
- 10) 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド。医学書院、2008
- 11) 友利幸之助：ADOC（作業意思支援ソフト）。齋藤編、作業で語る事例報告-作業療法レジメの書きかた・考えかた、医学書院、東京、2014、pp.60-61。
- 12) Kielhofner G（山田孝監訳）：人間作業モデル 理論と応用 改定第4版。協同医書、東京、2012。
- 13) 鳥羽健二監修 社団法人全国老人保健施設協会編集：認知症短期集中リハビリテーションプログラムガイド。リベルタス・クレオ、東京、2010。
- 14) 鎌田陽之、京極真：作業に根ざした実践のための認知症高齢者版作業的变化ガイドブックの開発（第1報）～作業的变化のカテゴリーの生成とガイドブック試作版の作成～。作業療法（掲載予定）
- 15) 鎌田陽之、京極真：作業に根ざした実践のための認知症高齢者版作業的变化ガイドブックの開発（第2報）～ガイドブック試作版の内部妥当性・外部妥当性の検討～。作業療法（掲載予定）

平成26年度 第2回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成26年6月1日(日) 11時15分～11時30分
II. 場所 : 株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 20名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 深町晃次, 田中真純, 福田裕樹, 轟木健市, 椋学美, 榎本孝史, 菅沼一平, 濱本孝弘, 手島智康, 大田登志樹, 平岡敏幸, 玉野和男, 佐藤稔, 有久勝彦, 沖雄二, (以上, 理事), 吉田秀樹, 原口健三 (以上, 監事), 鐘ヶ江秀俊, 藤崎実知子 (以上, 事務局)
欠席者氏名 : 田邊慎一 (以上, 事務局) (敬称略)

VI. 審議事項

1. 代表理事, 業務執行理事の互選について

代表理事, 業務執行理事について以下のように互選し, 定款第13条に基づき審議した結果, 過半数の賛成にて承認された。 →承認

代表理事	志井田太一氏
業務執行理事	竹中祐二氏
	座小田孝安氏

2. 会員外監事の推薦について

会員外監事として吉田秀樹氏(吉田秀樹公認会計士事務所 公認会計士)を推薦し, 社員総会において上程する旨が報告された。定款第12条に基づき審議した結果, 過半数の賛成にて承認された。 →承認

VII. 次回開催日

平成26年度 第3回理事会

日時 : 平成26年6月1日(日) 12:00～

場所 : 株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン



平成26年度 第3回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成26年6月1日(日) 12時00分～14時00分
II. 場所 : 株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 20名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 深町晃次, 田中真純, 福田裕樹, 轟木健市, 椋学美, 榎本孝史, 菅沼一平, 濱本孝弘, 佐藤稔, 手島智康, 大田登志樹, 平岡敏幸, 玉野和男, 有久勝彦, 沖雄二(以上, 理事)
吉田秀樹, 原口健三(以上, 監事) 鐘ヶ江秀俊, 藤崎実知子(以上, 事務局)
欠席者氏名 : 田邊慎一(以上, 事務局) (敬称略)

VI. 審議事項

1. 生活行為向上マネジメント研修会について(濱本保健福祉部担当理事)

研修会の開催日程と地区の報告. 以下の講師依頼について報告. →承認
宮本香織氏(日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント講師育成研修会参加
日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント推進メンバー)
長谷麻由氏(日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント講師育成研修会参加
日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント推進メンバー)
生駒英長氏(日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント推進メンバー)

2. 教育部精神分野研修会について(白山教育部担当理事)

以下の講師依頼について報告. →承認
大丸幸氏(九州栄養福祉大学リハビリテーション学部教授)精神科における急性期の作業療法について)

3. 筑後ブロック全体研修会について(轟木筑後ブロック担当理事)

以下の講師依頼について報告. →承認
竹松知紀氏(九州リオン株式会社 営業統括部リーダー)

4. 筑後ブロックC地区研修会について(轟木筑後ブロック担当理事)

以下の講師依頼について報告. →承認
吉永明史氏(柳川リハビリテーション学院 言語聴覚士)

5. 福岡東ブロック研修会講師について(大田福岡東ブロック担当理事)

以下の講師依頼について報告. →承認
蜂須賀明子氏(産業医科大学リハビリテーション医学講座 助教)
集中的OTによる上肢機能の向上
手島正志氏(長崎大学大学院国際健康科学研究所 理学療法士)
発展途上国におけるリハビリ

6. 筑豊ブロック研修会講師について(平岡筑豊ブロック担当理事)

以下の講師依頼について報告. →承認
菅沼一平氏(今津赤十字病院 作業療法士)認知症について

7. 北九州ブロック研修会講師について(玉野北九州ブロック担当理事)

以下の講師依頼について報告. →承認
金澤耕介氏(九州労災病院 医師)精神分野疾患について

8. 会員の入会について(中川理事)

平成26年5月1日から平成26年5月28日までの間に16名の入会があった. →承認

9. 生活行為向上マネジメント普及における助成事業について(濱本保健福祉部担当理事)

助成申請について提案があった. →一部修正の上承認

10. 事務局長の互選について

事務局長について以下のように互選し、審議の結果過半数の賛成にて承認された。
事務局長 中川昇氏 →承認

VII. 協議事項

11. 会員の福利厚生事業について（深町福利部担当理事）

会員の福利厚生事業の修正案について協議。 →三役意見附帯の上再協議

12. 他団体からの派遣依頼への対応について（志井田代表理事）

他団体からの派遣依頼に速やかに対応できるような仕組みを構築する必要性について提案。現在までに派遣経験のある会員を中心に対応可能な会員を登録者として一覧にする。
→承認

VIII. 報告事項（特記報告のみ記載。他、資料参照とする）

13. 代表理事行動について（志井田代表理事）

平成26年5月の代表理事行動について報告があった。

14. 県協会宛て依頼案件について（志井田代表理事）

平成26年5月1日から5月31日までの間に県協会宛てに6件の依頼（研修会案内依頼3件、講師・委員派遣依頼1件、その他依頼2件）があった。

15. 日本作業療法士協会主催 第12回合同研修会 派遣について（志井田代表理事）

日本作業療法士協会主催 第12回合同研修会（東京都にて開催）に濱本保健福祉部担当理事、福田保険委員会担当理事の2名を派遣する。

16. 高齢者支援と介護の質の向上推進会議の構成員推薦について（志井田代表理事）

高齢者支援と介護の質の向上推進会議に宮本香織氏（光となごみアクティブ応援館かめsun作業療法士）を推薦する。

17. 教育部研修会年間予定について（白山教育部担当理事）

教育部研修会の年間予定について報告。現職者共通研修会については、県学会と同日開催する予定で準備をすすめている。

18. WFOT広報ブース出展について（菅沼広報部担当理事）

WFOTブースの展示内容について事業部、企画委員会と協力しながら検討中。

19. ホームページのリニューアルについて（菅沼広報部担当理事）

県協会ホームページリニューアル前後のセッション数、ユーザー数を比較したところ増えている。

20. 平成26年度日本作業療法士協会特別表彰結果について（手島規約委員会担当理事）

平成26年度日本作業療法士協会特別表彰者として、福岡県協会会員からは中村義雄氏が表彰された。

21. 平成26年度第5回訪問リハビリテーション地域リーダー会議について（福田裕樹保険委員会担当理事）

平成26年5月16日・17日に開催された会議の参加報告。

22. 第19回福岡県作業療法学会の進捗状況について（椋福岡ブロック担当理事）

第19回福岡県作業療法学会の準備状況報告。

IX. 次回開催日

平成26年度 第4回理事会

日時： 平成26年8月4日（月）19：00～

場所： 株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン

医療法人恵愛会 福岡病院

- 【募集職種】 作業療法士
- 【募集人員】 若干名
- 【雇用形態】 常勤
- 【給 与】 月額 213,000円 ～
(実務経験を加味し算定します)
- 【賞 与】 年2回（7月・12月）
- 【勤務時間】 8：30～17：00（休憩50分）
- 【休 日】 土，日，祝（週休二日制）
- 【福利厚生】 社会保険完備，有給休暇，リフレッシュ休暇，旅行等のレクリエーション
- 【そ の 他】 交通費（規定あり），マイカー通勤（規定あり）
- 【備 考】 500床の精神科病院です．入院から地域へと幅広く活躍出来る人材育成に力を注いでいます．
- 【連 絡 先】 〒811-3295
福岡県福津市花見が浜1-5-1
TEL： 0940-42-0145
担当者： 坪井

医療法人原三信病院 香椎原病院

- 【募集職種】 作業療法士（女性） 急募
- 【募集人員】 1名（年齢24～40歳くらいまで）
- 【雇用形態】 常勤
- 【給 与】 当院規定にて優遇．
- 【賞 与】 年2回
- 【勤務時間】 回復期リハビリテーション病棟
日勤 8：50～17：04
早出 7：20～15：34
遅出 11：40～19：54
- 【休 日】 週休2日制
- 【福利厚生】 教育研修充実
- 【そ の 他】 昇給年1回，通勤手当，住宅手当
- 【備 考】 回復期リハビリテーション病棟（365日対応）
試用期間3ヶ月
- 【連 絡 先】 福岡県福岡市東区香椎3-3-1
電話番号 092-662-1333
FAX 092-662-1330
※施設見学随時対応いたします
見学対応担当者名：
リハビリテーション科 梅崎



- I. 開 催 日 : 平成26年6月1日 (日)
- II. 時 間 : 10時00分～11時15分
- III. 場 所 : 株式会社 らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン
- IV. 正会員数 : 2,490名 (平成26年3月31日現在)
- V. 代議員総数 : 41名
- VI. 本総会出席代議員数 : 本人出席 29名 書面評決者 10名
- VII. 出席者氏名 : <代議員本人出席>
志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋,
深町晃次, 田中真純, 菅沼一平, 濱本孝弘, 手島智康,
福田裕樹, 轟木健市, 棕学美, 大田登志樹, 平岡敏幸,
佐藤稔, 玉野和男, 榎本孝史, 有久勝彦, 沖雄二
日高健二, 田中聡, 東谷成晃, 古賀大亮, 澤田剛,
原野裕司, 原田布美子, 靱井剛士, 青山克実
<代議員書面評決者>
町田真一朗, 矢野浩二, 中原徳郎, 原田靖子, 深井信吾
渡辺友基, 藤田曜生, 黒木勝仁, 熊添潤一, 苗村俊助,
<監事>
原口健三, 吉田秀樹
<事務局>
鐘ヶ江秀俊, 藤崎実知子
- VIII. 議長, 書記選出 :
中川昇氏が開会を宣言し, 定款第23条に基づき出席代議員の中から議長に志井田太一氏が選出された。ついで議長の指名により書記に鐘ヶ江秀俊氏, 藤崎実知子氏が選出された。
- IX. 議事の経過の要領及びその結果
議長は, 議事運営委員長の大田登志樹氏より報告をうけ, 上記のとおり定足数に足りる代議員の出席があったので本総会は成立した旨を報告した。
ついで議長は定款第27条の規定により, 議事録署名人に青山克実氏, 東谷成晃氏を任命した。
議事録署名人 : 青山克実 (専門学校 麻生リハビリテーション大学校)
東谷成晃 (社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院)
- 第1号議案 : 平成25年度事業報告
第1号議案, 平成25年度事業について志井田太一代表理事より報告があった。
また, 吉田秀樹監事, 原口健三監事より監査報告があった。
議決の結果過半数の賛成にて承認された。
- 第2号議案 : 平成25年度収支決算
第2号議案, 平成25年度収支決算について中川昇氏より報告があった。また, 吉田秀樹監事, 原口健三監事より監査報告があった。議決の結果過半数の賛成にて承認された。
- 第3号議案 : 理事及び監事の選任
第3号議案, 理事及び監事の選任について中川昇氏より報告があった。
議決の結果過半数の賛成にて承認された。

X. 議長団解任

XI. 閉会の言葉

以上の議事進行をもって総会が終了した。

以上の決議を明確にするために、本議事録を作成し、定款27条により議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成26年6月1日 公益社団法人福岡県作業療法協会 定期社員総会

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学大学院

福岡キャンパス (福岡県福岡市)

大川キャンパス (福岡県大川市)

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻

作業療法学分野／理学療法学分野／リハビリテーション学分野／言語聴覚分野／看護学分野／ナースプラクティショナー養成分野／助産学分野／助産学（福岡）分野／視機能療法学分野／福祉支援工学分野／放射線・情報科学分野／生殖補助医療胚培養分野

医療福祉経営専攻

医療福祉経営学分野／診療情報管理・分析学分野／医療福祉国際協力学分野／先進的ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉連携学分野／医療福祉ジャーナリズム分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻

作業療法学分野／理学療法学分野／リハビリテーション学分野／言語聴覚分野／看護学分野／助産学分野／視機能療法学分野／福祉援助工学分野／放射線・情報科学分野／生殖補助医療胚培養分野／医療福祉経営学分野／診療情報管理・分析学分野／医療福祉国際協力学分野／先進的ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉連携学分野／医療福祉ジャーナリズム分野／医療福祉心理学分野

薬科学研究科

修士課程

生命薬科学専攻

薬学研究科

博士課程

医療・生命薬学専攻



◆ 社会人の方も働きながら無理なく受講できます

多くの授業を平日の夕方と土曜日に開講

◆ 一流教授陣の講義をリアルタイムで受講できます

各キャンパスを結ぶ同時双方向遠隔授業を実施

◆ 研究者志向の方のニーズにも対応できます

大田原キャンパスに充実の研究施設を整備

◆ 長期履修制度を導入しています

あらかじめ3年間での計画的な長期履修の申請が可能

※専攻・分野によっては、受講できるキャンパスが限られているものもございますので、詳細につきましてはお問い合わせ下さい。

※短大卒・3年制専門学校卒で進学可能（修士課程）

分野・領域についてのお問い合わせ・資料請求先

福岡キャンパス

〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜2-4-16
TEL : 092-407-0434
FAX : 092-407-0474
E-mail : fukucamp@iuhw.ac.jp

大川キャンパス

〒831-8501 福岡県大川市榎津 137-1
TEL : 0944-89-2000
E-mail : oocamp@iuhw.ac.jp

HP : <http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>

各部・委員会からのお知らせ

【教育部】

1. 主催研修会開催報告

1) 精神分野研修会

日 時：平成26年7月19日（土） 14:00～16:30

会 場：アシスト21 2F講堂（北九州市小倉北区馬借1-7-1）

テーマ：『精神科における急性期の作業療法について』

講 師：大丸 幸（九州栄養福祉大学リハビリテーション学部教授）

参加数：44名（OT 44名）

2. 今後の主催研修会開催予定（日程・会場）

1) 分野別研修会

発達分野研修会：H27. 1. 18（日） 麻生リハビリテーション大学校

身障分野研修会：H26. 11. 2（日） 麻生工科自動車大学校

地域分野研修会：調整中

2) 生涯教育制度関連研修会

① 現職者共通研修：第1回：H26. 11. 8(土) 小倉リハビリテーション学院

② 第2回：H27. 2. 14(土) 福岡アクロス（福岡県OT学会と共催）

③ 現職者選択研修：老年期分野：H26. 10. 19（日） 麻生リハビリテーション大学校

【筑豊ブロック】

1. 事業企画会議

第3回 筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成26年8月5日（火） 19:00～20:30

会 場：飯塚記念病院 多目的ホール

参加者：9名

2. 研修会報告

第3回 筑豊ブロック研修会

テーマ：「認知症の人とその家族への支援～作業療法士ができること～」

日 時：平成26年8月22日（金） 19:00～21:00

会 場：飯塚記念病院多目的ホール

講 師：菅沼 一平 先生（今津赤十字病院，作業療法士）

参加者：51名（含 PSW3名，RPT3名，管理者1名，介護1名，学生1名）

3. 広報誌

筑豊OT TIMES 第9号 平成26年7月16日発行

【北九州ブロック】

1. 活動報告

＜北九州ブロック＞

ブロック企画会議開催

平成26年7月14日（月） 19:00～ 曾根東市民センター 大会議室

平成26年9月8日（月） 19:00～ 曾根東市民センター 大会議室

第2回北九州ブロック全体研修会

日 時：平成26年7月20日（日） 15:30～17:30

会 場：八幡西生涯学習総合センター 201号

テーマ：「生きるを支える真の作業療法士像とは・・・若き片麻痺者二人が伝える提言と苦言と感謝の言葉」

講 師：葉山 靖明氏（株式会社ケアプラネット）・岸田 英雄氏

参加者：62名

第1回事例検討報告会開催

日 時：平成26年7月20日（日） 12:45～15:00

会 場：八幡西生涯学習総合センター 201号・204号

講 師：久野 真矢氏（九州栄養福祉大学），安永昌徳氏（宗像アコール）
長城晃一氏（北九州リハ学院），藤本氏（芳野ケアサポート）

演題数：14演題

参加者：70名

第25回全国ふうせんバレーボール大会実行委員会発会式

平成25年7月31日（木） 18:30～ 北九州市障害者スポーツセンター アレアス

＜小倉北・門司エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成26年7月8日（火）19:00～ 新小文字病院 すみれ寮1F会議室

平成26年9月2日（火）19:00～ 新小文字病院 すみれ寮1F会議室

第4回北九州ブロック研修会開催

日 時：平成26年9月1日（月）19:00～

会 場：北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 大セミナールーム

テーマ：「“作業” から捉えること ～4概念の視点から～」

講 師：益満 美寿氏（九州保健科学大学 保健科学部）

参加者：108名

＜小倉南・京築エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成26年7月23日（水）19:00～ 曾根東市民センター

平成26年9月17日（水）19:00～ 曾根東市民センター

第3回北九州ブロック研修会開催

日 時：平成26年8月1日（金）19:00～

会 場：九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス

テーマ：「うつ病の理解と対策」

講 師：金澤 耕介氏（九州労災病院 医師）

参加者：66名

＜八幡西・遠賀・中間エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成26年7月3日（木） 19:00～ 産業医科大学病院

平成26年8月4日（月） 19:00～ 産業医科大学病院

＜戸畑・若松・八幡東エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成26年6月3日（水）19:00～ あやめの里

第2回北九州ブロック研修会開催

日 時：平成26年6月20日（金）19:00～

会 場：戸畑リハビリテーション病院

テーマ：「血液データについて ～知って役立てよう臨床検査～」

講 師：佐藤 房枝氏（戸畑共立病院 臨床検査技師）

参加者：80名

【筑後ブロック】

＜公1＞

1. 事業企画会議

1) 筑後ブロック事業企画会議

開催日：平成26年8月26日（月）19:30～

場所：高良台リハビリテーション病院 リハ室内 出席者：10名

2) B地区企画会議（第3回）

開催日：平成26年8月6日（水）18:30～20:00

場所：介護老人保健施設のぞみ船小屋 出席者：5名

①平成26年度地区研修会について

②地区交流会について

2. 研修会

1) 筑後ブロック第1回分野別研修会開催

- (1) 日時：平成26年7月13日(日)
- (2) 会場：柳川リハビリテーション学院
- (3) 内容

①身体障害分野

テーマ：整形外科分野の作業療法（橈骨遠位端骨折におけるハンドセラピー）

講師：武田 実 先生（川崎病院 作業療法士）

参加者：26名

②精神障害分野（今回は精神障害分野に限らない）

テーマ：AMP Sの基礎と実践（全分野対象）

講師：福田 久徳 先生（小倉リハビリテーション病院 作業療法士）

参加者：27名

③高齢期分野

テーマ：認知症の作業療法（OTとしての家族支援）

講師：上城 憲司 先生（西九州大学リハビリテーション学部 作業療法士）

参加者：45名

④発達障害分野

テーマ：重症心身障害児者の呼吸ケア ～アセスメントからアプローチまで～

講師：中村 信也 先生（久留米大学 看護師）

参加者：22名

＊総参加者数：120名

2) 平成26年度 筑後ブロックC地区研修会開催

- (1) テーマ：「明日にでも現場で役立つ、摂食嚥下障害の評価とリハ」
- (2) 講師：吉永 明史 先生（柳川リハビリテーション学院 言語聴覚学科 言語聴覚士）
- (3) 日時：平成26年9月18日（木） 19:00～20:30（受付18:30～）
- (4) 会場：帝京大学 福岡医療技術学部
- (5) 参加者：53名
(OT：30名，PT：5名，ST：3名，Ns：6名，CM：3名，CW：4名，歯科衛生士：1名，リハ助手：1名)

<公2>

1. 広報

1) Facebook広報

- (1) 6/17：第16回世界作業療法士連盟大会開催のお知らせ
- (2) 6/19：第16回世界作業療法士連盟大会通信(6/18)
- (3) 6/20：第16回世界作業療法士連盟大会通信(6/19)
- (4) 6/23：第16回世界作業療法士連盟大会通信(6/21)
- (5) 6/24：筑後ブロック分野別研修会のお知らせ(7/13：AM)
- (6) 6/28：筑後ブロック懇親会の報告
- (7) 7/4：日本作業行動学会学術集会のお知らせ(8/30-31)
- (8) 7/14：筑後ブロック分野別研修会の報告
- (9) 7/15：日本地域作業療法研究会研修会のお知らせ(7/20-21)
- (10) 7/25：筑後ブロックC地区研修会のお知らせ(9/18)
- (11) 8/18：筑後ブロックB地区研修会のお知らせ(10/11)
- (12) 8/19：研修会紹介 「gocochi」＊企画研修のお知らせ

2) 福岡県作業療法協会ホームページ掲載

- (1) 筑後ブロックC地区研修会(9/18)依頼
- (2) 筑後ブロックB地区研修会(10/11)依頼

<他1>

1. 会員交流事業

1) 親睦会

- (1) 開催日時：平成25年6月27日（金） 受付19:00～ 開始19:30 終了21:30
- (2) 開催場所：アルティオーノ
- (3) 当日運営：担当地区（B地区，C地区）→司会進行，余興，プログラム作成・実施
- (4) 参加者：102名

【今後の活動予定】

<公1>

1. 事業企画会議

1) 第4回筑後ブロック事業企画会議

(1) 平成26年10月20日 (月) 19:30～ 場所：高良台リハビリテーション病院 (代表者)

2) 第4回B地区企画会議

(1) 平成26年10月2日 (木)

3) 第4回D地区企画会議

(1) 平成26年10月2日 (木)

2. 研修会

1) A地区研修会 (県協会主導)

(1) 日程：11月9日 (日)

(2) 内容：生活行為向上マネジメント研修会

(3) 場所：久留米リハビリテーション学院内

2) B地区研修会

(1) 日時：平成26年10月11 (土) 10:00～12:00 (受付9:30～)

(2) テーマ：「在宅生活に必要な生活環境整備の基礎知識と応用.

～医療機関から在宅サービスへの円滑な移行のために～」

(3) 講師：株式会社くすま (熊本住まいづくり研究所たつくりハサポートセンター)

代表取締役 河添竜志郎氏 (理学療法士)

(4) 会場：八女市民会館 おりなす八女 第3研修室 八女市本町602-1

3) D地区研修会 (全体研修会)

(1) 日時：10月19日 (日) 9:30～

(2) テーマ：～高齢者に携わる全ての方に知って欲しい～

「きこえとコミュニケーション」

(3) 講師：竹松知紀 先生

(4) 場所：甘木中央病院

3. 事例検討報告会予定

1) 事例検討報告会参加者予定

・第1回10月10日 (金) 久留米大学医療センター 発表：6名 聴講：15名

・第2回11月14日 (金) 甘木中央病院 発表：11名 聴講：3名

・第3回1月14日 (水) 久留米リハビリテーション学院 発表：10名 聴講：21名

・第4回2月18日 (水) 帝京大学福岡医療技術学部 発表：11名 聴講：4名

※今年度発表者：38名 今年度聴講者：43名 合計：71名参加予定

<他1>

1. 会員交流事業予定

1) B地区地区交流会

(1) 日時：平成26年11月14日 (金) 19:00～

(2) 場所：未定

2) C地区交流会について

(1) 日時：11月7日 (金) 19:00～

(2) 場所：検討中

(3) 担当 森

【福岡ブロック】

1. 事業企画会議開催：7月8日，8月19日，9月18日

2. 広報部

「Joy Style 夏号」(8月) 発行

Facebook：随時更新中

3. 教育学術部

1) 『作業療法士と教員の連携～ADOC-Sを用いた実践を通して～』

講師：仲間 知穂先生 (琉球リハビリテーション学院)

日時：平成26年8月28日 (木) 19:00～20:30

会場：福岡赤十字病院（アネックス棟 椎木記念ホール）

参加：48名

4. 事例報告・検討会

日時：平成26年9月22日（月）19：00～

会場：麻生リハビリテーション大学校

発表：3名 聴講：3名

5. エリア会

東・中央区エリア会

講師：ひまわり苑 鎌田先生

日時：平成26年8月1日

テーマ：『事例報告について（症例発表のポイント）』

参加：21名

城南・早良区エリア会

日時：平成26年8月21日

テーマ：事例報告について（症例発表のポイント）

参加：15名

講師：ひまわり苑 鎌田先生

6. 県民健康づくりセミナー

『ひととは作業をする事で健康になれる』

講師：黒田 隆之先生（㈱エビデンスケア研究所 アイエック訪問看護ステーション）

日時：平成26年8月5日（火）14：00～15：00

会場：福岡県医師会館

参加：17名

7. 第19回福岡県作業療法学会準備委員会開催：7月3日，8月7日，9月2日

体に合った車いす・目的に合った車いす
を提供します
車いす・介護用品・福祉用具レンタル

本社／福岡市中央区天神 5-4-15
営業本部／糟屋郡粕屋町仲原3丁目 9-20
TEL／092-938-2208
HP／<http://www.takisyokai.co.jp>



タキ商会

医療法人社団天翠会 介護老人保健施設 エメロード三萩野 衛藤 まき

はじめまして、医療法人社団天翠会介護老人保健施設エメロード三萩野で作業療法士として働いています衛藤まきと申します。今回このような機会をいただきありがとうございます。この機会を通して、皆様に少しでも当法人について知って頂けたらと思います。

社団天翠会は、ケアミックス型の松井病院（99床）を中心に、「介護老人保健施設エメロード三萩野」，「こがね介護支援会館」，通所介護事業所として「デイサービスみどり」，「デイサービス高野」，認知症対応型共同生活介護グループホーム「吉田みどりの里」，「高野みどりの里」で構成されています。私の所属しているエメロード三萩野は通所リハ（定員35名）と80床の療養棟を有し，「利用者様の笑顔を一番」に地域に開かれた施設作りに取り組んでいます。

現在，当施設には理学療法士4名，作業療法士3名，助手2名が所属しており，私は入所部門を担当しています。老健でのリハビリテーションでは1名につき約20分と限られた時間の中での関わりとなるため，毎日のカンファレンスやミーティングを行い，その方にとって何が必要なのか，どうすればもっとその方の能力を引き出せるのか他職種同士で話し合い，生活の中で実践しています。中でも，当施設は在宅復帰へ向けた取り組みを積極的に行っています。現在の在宅復帰率は5割前後を推移しています。入所前後の訪問に始まり，退所後も訪問し，利用者様の生活状況の確認をさせていただいています。ご高齢であり障がいも多種多様，介護者様もご高齢というケースも多く，どうしたらその方らしくいきいきと生活できるか悩む毎日です。しかし，悩みながらも退所後にご自宅に訪問させてもらった際に，在宅へつなぐことが出来てよかったと思うことも少なくありません。ある方は家に帰りたいたと入所時より強く希望されていました。関わりの中で，ご本人様は晩酌が好きで，家に帰ってもお湯割りを作って飲みたいという希望がありました。ご本人様の能力，環境等を評価し，看介護スタッフと協力して自宅に近い環境設定を行い，ケアマネージャー，ご家族様と密に連絡を取りながら無事に在宅へ帰ることができました。入所中はベッドで寝て過ごすことが多く，外へ出ることも嫌がられていたこともあり，退所後訪問に伺う際にかかなりの不安がありました。しかし，ご自宅へ伺った際には「昨日はちょっと飲みすぎたかな？」と顔を赤らめながら迎えてくださいました。新たに仏壇のお参りという日課も増えており，次は外に散歩に出かけられるようになりたいと嬉しそうに話してくださいました。その時のいきいきとした笑顔は私の宝物です。晩酌がしたいというご本人様の目標が達成されたことが，自信につながり新たな目標を持つきっかけになったのだと思います。その方は今も新たな目標を達成すべくデイケアに通われています。最近是他利用者との関わりも増えてきているそうです。家に帰りたいたという訴えの中にあるご本人様の本当にしたいことは何なのかを考え，可能性を追求することは私が作業療法士として働く上で大切にしていることの一つです。もちろんそこに利用者様の笑顔があることが一番です。また，作業療法士が関わるだけでなく，様々な職種が関わってはじめてこの方の目標が達成できたのだと思います。

私も作業療法士になり10年が経ち，現在の職場で働き始めてから4年になります。まだまだ学ぶことも多く，ジレンマに悩まされることもあります。多くの方達の支えがあったからこそ，今も作業療法士として働くことができていると日々実感しています。今後も多くの方の人生に触れ，自分自身も一緒に成長できるようにひたむきに頑張っていきたいと思っています。



医療法人 三芳会 若戸病院 中村 依古

「わー、山の中！」私が若戸病院にもった第一印象です。若戸病院は北九州市若松区の端にあり、1966年開設の精神科病院です。

私が就職したのは2000年。就職当時、周囲にお店はあまりなく、車の免許が無かった私はすぐに免許を取りにいきました。車がないと生活できないと思ったからです。

作業療法で散歩に行く場所は山の周囲の道で、蛇やザリガニを普通に?!見ることが出来ました。そんな周辺も今では、山や田んぼが道路や宅地になり、飲食店などのお店も多く建っています。周囲の変化を見ると十年一昔って本当だなあと感じます。

目に見える変化はわかりやすいけれど、自分自身はOTとして変わったのかな～。成長できたのかな～。・・・そんなことを考えていたら、風邪を引きました。10日たってもまだ治ってません。体力の衰えを感じ、やはり時間が経ったんだなあ。年取ったんだなあと思いました。他にも、腰痛などもでてきています。自分の衰えは時間の経過分、しっかりと感じる事ができています。

しかし、歳をとって若い頃のように無理はしなくなりました。調子が悪くなりそうな時の、自分の心身の出すサインに気付けるようになったし、自分の体との上手な付き合い方もわかってきた気がします。

自分の体・心の出すサインを知ること、それに気付くこと。痛みや怪我と上手に付き合いながら生活していくこと。歳を重ねる中で、自分自身の経験を通してわかってきたことで、きっと20代の頃は若さ？で乗り切り、感じる事が出来なかった感覚です。経験から学んできたことは歳を重ねてきたおかげだなあ、そう思えました。

これからも色々な経験を重ねながら、人としてOTとして成長し、経験とゆとりのあるOTになりたいと思います。



北九州市議会議員 中村 義雄

北九州市議会議員の中村義雄です。もちろん作業療法士です。

経歴は今は閉校しました国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院作業療法学科を29年前に卒業後、民間医療機関で7年、北九州市役所で10年、作業療法士養成校教員2年、現在市議会議員として10年目です。

市議会議員になるきっかけは医療機関で訪問リハをしたことでした。当時は診療報酬で訪問リハが認められていない時代で診療報酬的にはボランティアでした。約25年前の市役所の窓口は利用者やご家族が相談や福祉関係の申請に行くと上から目線で、制度についても間違っただけを言う人もいて申請に行ったご家族が泣いて帰ってくる場面にたびたび遭遇しました。そのたびに市役所と喧嘩し、この頃生まれ育った北九州市の役所を当事者目線に変えていかなければという気持ちがわいてきました。北九州市役所を変えるために医療機関をやめ北九州市役所に入りましたが、一職員が当事者の代弁をしても全く聞いてもらえません。そこで市役所をやめ、市議会議員選挙に挑戦することにしました。

選挙では今は亡き吉田先生を始めOTの仲間に応援していただき無事当選できました。



議員になってわかったことは医療でいえば医師会や歯科医師会、薬剤師会、医療以外でも各種団体が自分たちの職域を守るために議員とコンタクトをとって活動をするのがあたりまえだということです。私たち作業療法士のように常にまじめに現場だけを考えている団体はむしろ稀です。

政治は自分には関係ないと感じられている方もいらっしゃると思いますが、診療報酬や介護報酬、様々な制度はすべて政治が決めているし、自分たちに有利に働くように多くの団体が政治家と付き合い活動している事実をぜひ理解して欲しいと思います。

皆さんの前の利用者のためにも議員として橋渡し役を務めていきます。いつでもお気軽に声をかけてくださいね！

地域包括ケアシステムと作業療法

平成26年9月10日

「福岡県，市町村の事業に注目を」

公益社団法人 福岡県作業療法協会
会長 志井田 太一

我国の人口動態は大きく変化し，人口減少と共に児童，就労年齢の人口が減少し，高齢者が占める割合が徐々に増えて行くことが予測されています．このままでは，従来の社会的な枠組みでは立ち行かなくなることが目に見えており，新しい視点に立った枠組み作りに早急に取り組まなければならないとなっています．

「保健」，「医療」，「福祉」の領域では，「地域包括ケアシステム」が提唱され，リハビリテーション専門職等への期待が高まっています．その中心となる「地域包括ケアシステム」では，住まい，医療，介護，予防，生活支援が一体的に提供され，自助，共助（社会保険制度），公助（生活保護，人権擁護等），互助（住民組織の活動等の助け合い）を組み合わせ，たとえ重度な要介護状態となっても，住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるように支援するシステム作りと捉えることができます．

この中でリハビリテーション専門職に求められているのは，「単に高齢者の運動機能や栄養状態といった心身機能の改善だけではなく，日常生活の活動を高め，家庭や社会への参加を促し，それによって一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組みを支援して，QOLの向上を目指す」（厚生労働省）こととなっています．この目的は，作業療法を日々提供している作業療法士の理念と大部分で一致しており，今までは病院や施設の中に限局されがちであったサービスの内容を，職能団体としてかつ公益社団法人として市町村レベルまで広げる役割を与えられたと捉えています．

具体的には，喫緊では市町村，または地域包括支援センター事業である「地域ケア会議のアドバイザー活動」，「新しい介護予防事業への参画」，「認知症初期集中支援チームへの参画」などがあります．その他，教育の領域では「特別支援教育への支援」も同様に求められることが予測されます．これらの事業を遂行するに当たっては，個々のケースの課題解決に向けての考え方を整理するツールとして，日本作業療法士協会が開発し啓発している「生活行為向上マネジメント」の習得が役に立ちます．

今後，ホームページ等を通してこれらの重点活動についての最新の情報を提供し，日本作業療法士協会や当協会では関連する研修会を企画・開催していく予定です．これらの情報には，特にしっかりと目を留め確認をお願いします．

今や我国にとってなくてはならない介護保険制度は，具体的な検討が始まってから開始されるまでに12年間を要しました．この制度を現状に合った制度へと強化するためには，各自が高い意識をもって取り組まなければならない課題であると考えます．

公益社団法人に移行する際の会員へのアンケートの中では，勤務先の業務以外の事業への参画に対して様々な理由で消極的なご意見を散見しましたが，他人任せではない「これからの町づくり」という大きな目標をもって，会員の一人ひとりが職場でも協力し合いながら積極的に活動・参加して頂くことを期待します．

お問合せは，<http://www.fuku-ot.org/contact.html> まで．

会員動向調査

調査期間 (2014. 6. 19～2014. 9. 11)

福岡県作業療法協会 会員数2,624 名 (正会員2,382 自宅会員242名)

<入会>

中村 里沙	東和病院	: 2014年6月
四元 孝道	九州栄養福祉大学	: 2014年6月
大島 昂士	小倉リハビリテーション病院	: 2014年7月
若松 幸子	小倉リハビリテーション病院	: 2014年7月
平山 晋也	小倉リハビリテーション病院	: 2014年9月
松元 章泰	産業医科大学病院	: 2014年6月
平賀 大貴	産業医科大学若松病院	: 2014年8月
林 佑樹	西野病院	: 2014年7月
中村 しおり	製鉄記念八幡病院	: 2014年6月
桃田 紗昌	株式会社サンヴィラ ヴィラノーヴァ大谷	: 2014年2月
今村 恵美	大手町病院	: 2014年6月
野元 靖子	戸畑リハビリテーション病院	: 2014年6月
大杉 真紀子	療養介護事業所 ひなた家	: 2014年5月
高橋 夏音	介護老人保健施設 千寿中間	: 2014年6月
三原 真智	デイサービス ファイン	: 2014年6月
井出上 千尋	北九州中央病院	: 2014年7月
岐部 千佳子	九州病院	: 2014年7月
大庭 由愛	新王子病院	: 2014年6月
樋口 道子	行橋市役所 介護保険課	: 2014年7月
久藤 千明	九州労災病院	: 2014年7月
岩本 隆良	堤病院	: 2014年8月
白武 有沙	堤病院	: 2014年8月
小村 和人	新小文字病院	: 2014年5月
相川 李奈	新小文字病院	: 2014年6月
中川 祥子	新小文字病院	: 2014年7月
富高 啓史	新小文字病院	: 2014年8月
湯越 亮	新小文字病院	: 2014年8月
久保山阿梨沙	新行橋病院	: 2014年4月
中山 恭子	新行橋病院	: 2014年6月
亀澤 清華	新行橋病院	: 2014年7月
久保 佑美香	福岡新水巻病院	: 2014年7月
陣内 美弥	福岡新水巻病院	: 2014年7月
佐藤 千穂	福岡新水巻病院	: 2014年7月
岩切 聡実	福岡新水巻病院	: 2014年8月
田竈 茜	福岡新水巻病院	: 2014年8月
石井 真	福岡新水巻病院	: 2014年8月
河野 由依	福岡新水巻病院	: 2014年8月
高橋 順二	北九州古賀病院	: 2014年6月
於保 好美	福岡青洲会病院	: 2014年6月
坂井 美月	福岡青洲会病院	: 2014年6月

定村 直子	デイサービス ステップ	
		: 2014年7月
荒牧 香織	福岡病院	: 2014年7月
組坂 優	宗像医師会病院	: 2014年8月
浅井 大和	寺沢病院	: 2014年6月
大西 美希	博愛会病院	: 2014年6月
諸隈 有紀	博愛会病院	: 2014年6月
田中 亜季	博愛会病院	: 2014年6月
古賀 春菜	白十字病院	: 2014年6月
岡部 亜紀	白十字病院	: 2014年6月
峰本 有里奈	白十字病院	: 2014年6月
田中 文	福岡市立こども病院・感染症センター	: 2014年7月
鈴木 優子	城浜診療所	: 2014年7月
家地 充奈子	香椎丘リハビリテーション病院	: 2014年7月
松葉 千波	香椎丘リハビリテーション病院	: 2014年8月
塚崎 あゆみ	夫婦石病院	: 2014年7月
三嶋 玲美	今津赤十字病院	: 2014年6月
川崎 勇樹	今津赤十字病院	: 2014年7月
西元 唯伊	福岡和白病院	: 2014年7月
渕 雅子	誠愛リハビリテーション病院	: 2014年8月
中村 竜太	誠愛リハビリテーション病院	: 2014年8月
道下 裕之	桜十字福岡病院	: 2014年8月
平田 創士	桜十字福岡病院	: 2014年8月
柴田 さおり	村上華林堂病院	: 2014年8月
養川 マミ	村上華林堂病院	: 2014年8月
山川 睦美	村上華林堂病院	: 2014年8月
白石 美樹	田川新生病院	: 2014年6月
松隈 綾美	田川新生病院	: 2014年6月
崎田 和貴	田川新生病院	: 2014年6月
山脇 祐佳	健康リハビリテーション内田病院	: 2014年6月
吉田 奈津美	健康リハビリテーション内田病院	: 2014年7月
片渕 奨太	健康リハビリテーション内田病院	: 2014年8月
林 美幸	飯塚市立病院	: 2014年8月
山下 裕香	甘木病院	: 2014年6月
兒玉 航大	松岡病院	: 2014年6月
西村 彬	福岡志恩病院	: 2014年6月
梅崎 直美	みずま通所リハビリテーションセンター	: 2014年7月
藤木 博子	高木病院	: 2014年7月
川勝 陽平	柳川療育センター	: 2014年7月
砥綿 花の	柳川療育センター	: 2014年7月
西村 知夏	柳川リハビリテーション病院	: 2014年6月

幸山 優美 柳川リハビリテーション病院 : 2014年8月
 宮原 里奈 柳川リハビリテーション病院 : 2014年8月
 渡部 里奈 みさき病院 : 2014年7月
 矢野 祐子 みさき病院 : 2014年7月
 松田 美恵子 みさき病院 : 2014年7月
 池部 祥太郎 朝倉記念病院 : 2014年7月
 今山 裕美 長田病院 : 2014年9月
 喜屋武 佳澄 聖マリア病院 : 2014年6月
 脇 葵依 聖マリア病院 : 2014年7月
 下川 泰弥 聖マリア病院 : 2014年8月
 野口 陽司 八女リハビリ病院 : 2014年6月
 福山 友梨 八女リハビリ病院 : 2014年6月
 工藤 瑞稀 八女リハビリ病院 : 2014年7月
 高山 翔平 原鶴温泉病院 : 2014年8月
 秦 順世 原鶴温泉病院 : 2014年8月
 <県内移動>
 岡村 総一郎 株式会社 リハソリューション : 2014年6月
 (新行橋病院より)
 安元 裕加 大手町病院 : 2014年4月
 (戸畑けんわ病院より)
 秋吉 潤弥 戸畑けんわ病院 : 2014年4月
 (大手町病院より)
 原 未来 新生会病院 : 2013年11月
 (あおぞらの里 古賀訪問看護ステーションより)
 森内 正人 新生会病院 : 2013年10月
 (新小文字病院より)
 松岡 春菜 新生会病院 : 2014年6月
 (西野病院より)
 宮木 麻美 さくら整形外科リハビリテーション医院 : 2014年4月
 (自宅より)
 石川 英美子 若戸病院 : 2013年10月
 (介護老人保健施設 あやめの里より)
 樋口 美里 自宅 : 2014年7月
 (北九州中央病院より)
 今任 洋就 自宅 : 2014年7月
 (北九州古賀病院より)
 槇 抄子 自宅 : 2014年4月
 (大手町病院より)
 森 将悟 自宅 : 2013年4月
 (北九州湯側病院より)
 野田 妙子 訪問看護ステーション やまびこ : 2014年4月
 (福岡聖恵病院より)
 花田 由美子 赤間病院 : 2014年7月
 (自宅より)
 初田 聡子 自宅 : 2014年7月
 (門司区医師会在宅総合ケアセンターより)
 西尾 絵里香 城浜診療所 : 2014年7月
 (千鳥橋病院より)

吉田 美里 福岡山王病院 診療技術部 : 2014年8月
 (福岡山王病院通所リハビリテーションより)
 本田 真理子 介護老人保健施設 なびき荘 : 2013年12月
 (北九州八幡東病院より)
 吉田 愛仁 訪問看護ステーション 悠 : 2014年6月
 (訪問看護ステーション 千代 より)
 徳永 頼子 米の山病院 : 2012年2月
 (みさき病院より)
 松葉 真一 大牟田天領病院 : 2013年4月
 (高良台リハビリテーション病院より)
 阿部 久実 自宅 : 2014年5月
 (柳川療育センターより)
 西田 幸代 柳川リハビリテーション病院デイ
 ケアセンター : 2014年5月
 (柳川リハビリテーション病院より)
 森脇 悦子 やながわ訪問看護ステーション : 2014年8月
 (おおかわ訪問看護ステーションより)

<退会者>

大田 顕勝 : 2014年8月
 大江田 加奈子 : 2014年6月
 片桐 若菜 : 2014年7月
 永松 友美 : 2014年8月
 森本 花梨 : 2014年8月
 上野 有美 : 2014年6月
 宮崎 剛 : 2014年6月

会員の皆様へ

これまで、会員の皆様の異動状況を会報にて報告してまいりましたが、「事務所へ報告はするが、会報への掲載は望まない」という要望もございます。異動等の報告の際、会報への掲載を希望されない場合は所定の用紙（異動届等）にその旨ご記入ください。



異動の際の手続きについて

職場・自宅等の変更のあった方は、必ず文書で県協会事務局へご連絡下さい。

協会ホームページ (<http://www.fuku-ot.org/>) へアクセスし、入会・異動・退会の項から届出用紙をダウンロードして下さい。

用紙に異動前・後の施設名、郵便番号、住所、電話番号を明記して下さい。自宅住所の変更もお忘れなくお願いします。

ご不明な点は、福岡県作業療法協会事務所までお問い合わせ下さい。

T E L 093-952-7587



編集後記

団塊の世代の方々が75歳以上となる2025年を目途に、地域包括ケアシステムづくりが進められています。「地域ケア研究会報告書」では、「リハ専門職種（PT、OT、ST）等も加わり、生活支援のためのリハプログラムを作成し、家族及び介護職への指導や改善のアセスメントを行う」とされています。長期的に住み慣れた地域で生活していくことを前提に、より指導を充実させていくことが求められており、そのためには家族や他職種にリハの指導をわかりやすく、かつ具体的に伝える必要があります。しかし、「伝えること」・・・現場において、これが簡単なようで非常に難しい。伝えることも重要な技術の一つではありますが、この「伝達技術」は意外と着目されていないようにも感じます。地域においては直接的なリハの提供が困難なケースも多く散見されます。我々プロフェッショナルが持っている技術は、最終的に利用者、家族、地域に伝え、そこで生活の安定が得られてこそ意義があるものです。小手先の技術だけではなく地域へ伝える「伝達技術」も一度見直してみましょう。

（s 沼）

